

未来の農業担い手確保を目指して！ —多賀町霜ヶ原で他出子弟と収穫祭を開催—

多賀町霜ヶ原で地域の活性化を目指した初めての取り組みとなる収穫祭が 10 月 29 日に開催されました。当日は雨でしたが、地元集落と集落外から総勢 50 名（集落住民 22 名、他出子弟 27 人（夫婦 7 組と男性 1 名、子供 12 名）、緑のふるさと協力隊員 1 名）の方が参加され、みなさん霜ヶ原産のお米と野菜で作った料理に舌鼓を打ち、活気にあふれていました。

当課は「小さなことでもいいから、地域の活性化に向けてできる取り組みを検討しましょう」と提案し、集落のみなさんや関係機関と一緒に 5 回に渡ってできることを検討してきました。その結果、今回の収穫祭の開催に至りました。また、協力隊と区のみなさんが栽培する野菜も現地にて 3 回技術指導を実施し、十分な収量を得ることができました。

霜ヶ原がこれだけ賑わうのはこれまで年 1 回の地蔵盆だけでしたが、今回の収穫祭はこれを上回る方に参加いただきました。

区長さんは「霜ヶ原に帰ってきてもらえるように、これからも収穫祭を続けていきたい。」、営農リーダーは「これだけの人が集ったのは想定外だ。」とおっしゃっていました。

そして、来年の実践活動の参考とするため、収穫祭の感想や米の栽培を手伝ってみたいか等について他出子弟と集落の方（役員以外）20 名へアンケートを実施した結果、7 割の方が「来年も収穫祭を続けた方がいいと思う。」と回答され、さらに「来年の収穫祭で食べるお米の田植え、稲刈りを手伝いたいと思う。」と回答された方が 30 代から 60 代の男女合わせて 9 名おられ、明るい兆しが見えてきました。この結果を見て営農リーダーは「手伝ってもらえる人が居ると思っていなかったし、手伝いたいと思っている人がこんなに居るのは本当に予想外だ。来年から田植え、稲刈りを恒例行事にしていくことも考えたい。」とおっしゃっていました。

当課では引き続き毎月開催される霜ヶ原村づくり委員会に参加し、地域の活性化と営農の担い手確保に向けてできることを集落の皆さんや関係機関と一緒に検討していきます。



霜ヶ原産米を釜戸で炊飯



賑わう収穫祭